

そうか生きもののだより 創刊号

編集 そうか生きもの調査編集委員会/草加市環境課 発行 草加市
〒340-8550 草加市高砂一丁目1番1号 TEL048-922-1519 / FAX048-922-1030



【ツミの親子】

6月、ツミが獨協大学内で営巣し、中旬に孵化が確認され、その後19日に元気なヒナ5羽が親と共に元気な姿を見せてくれました。

学内に営巣した場所は、学生が往来する賑やかな所でもあり、巣立ちまでどうなるのかと心配されましたが（途中トラブルあり…巣

から落ちたりし）、関係者の協力も得て無事5羽が巣立ちすることができました。

ツミ：日本最小の猛禽類であり、雄は約26cm、雌は30cmほど。分布はインドネシア、タイ、中国、日本、フィリピン、マレーシアなどで、日本では夏鳥でもあり留鳥でもある。

主な内容

- | | |
|---------------------|--------------------|
| ❶ ツミの親子（近岡勝夫さん撮影） | ❺ 調査員からのQ & A |
| ❷ そうか生きもののだより発刊によせて | ❻ こんな生きものを発見 |
| ❸ 第2回そうか生きもの集合調査を開催 | ❼ 個別調査結果 |
| ❹ オタマジャクシ観察レポート | ❽ 第2回生きもの集合調査観察リスト |

■そうか生きものだより発刊によせて

加納 正行さん

〔そうか生きもの調査運営委員会委員長〕

昨年度から発行されている『そうか生きもの調査だより』は、平成28年3月に施行された第二次草加市環境基本計画の重点プロジェクト“**生物多様性の保全と活用『草加市生物多様性地域戦略』の策定に向けて**”の方針「市民参加による草加市の生きもの調査の実施」に基づき、草加市の生きものの基礎情報を収集するものです。

私たち人間は、人間だけでは生きていきません。豊かな自然の恵み、つまり多くの野生の生きものたちに支えられて生きています。この豊かな自然を形成しているのが生態系です。

私たちの生活（衣食住はもちろん医薬品も）のほとんどはこの自然からの恵み（生態系サービス）を受けています。地域の生物多様性（多くの生きものやいろいろな環境）を保全することは、自分たちや将来の世代のために必要なことであり、身近な生きものを調べるといことは、その生きものが住む環境を知ることになります。さらに、このような調査結果を市民に知ってもらうことによって草加市の自然環境の現状を市民が共有できます。

「こんな生きものたちが、まだ頑張っている」「もう居なくなってしまったのかなあ」という思いから、「これは未来につなごう、取り戻そう」という機運が生まれることも期待でき

ると思います。

草加市の環境の理念でもある「人と自然がともに生きるまち そうか」を現実のものとするためにも、私たちのまちに今どんな生きものがあるのか、どんな生きものが見られなくなったかを知することは、失った自然環境やこれから再生すべき自然環境を知るためにも、また、今生きている私たちはもちろん、まだ見ぬ次の世代のためにとっても必要なことです。この『生きものだより』が後の世にレガシーとなって、真の「人と自然がともに生きるまち そうか」のまちづくりの一助となれることを確信しております。

21年続いた『自然観察レポーターだより』を支えて下さったレポーターの方々、本当に貴重な記録を残していただき感謝しています、ご苦勞様でした。昨年度からは、小学生から高齢者まで、多くの一般市民の方々も含めた調査員での調査が開始され、この『生きものだより』も市民で構成された編集会議のもとで新たに作られたものです。今までと違った視点での調査・報告・記録により、前回以上の成果が出る事を期待しております。今回装いを変えた『そうか生きものだより』発刊に際してご努力下さった編集委員、事務局に心から感謝いたします。

■第2回そうか生きもの集合調査を開催 2017.5.13

柿木田んぼシギ・チドリ観察会

網藤 敏郎さん

4月下旬になると草加市の北東部柿木町に広大な湿地が現れます。田植えを間近に控えた柿木田んぼです。かつて草加にはたくさんのため池や湿地が広がり、白いサギがたくさん舞っていたそうですが、今では田んぼは住宅地や倉庫

に変わり、カエルなどの生き物も姿を消しました。時が経ち草加市に唯一残ったのが柿木田んぼです。

13日の観察会当日はあいにくの雨になってしまいました。しかしそんな天気にもかかわらず

女性14名、男性17名、職員の方5名の合計36名、小学生など小さいお子さんも参加いただきました。ご参加ありがとうございました。みんなで探した結果、柿木田んぼで命をつないでいる野鳥19種を見ることが出来ました。

午前9時に柿木公民館に集合、挨拶などがあり田んぼに出発しました。幸い雨は小降りになる時もあり傘を差しながら歩きます。歩き始めて間もなく田植えが終わったばかりの田んぼにムナグロを見つけることが出来ました。僕は野鳥の中でもシギやチドリが大好きです。野鳥は渡りをする種類が多いですが、特にシギやチドリは大変長距離を移動します。柿木田んぼで一番多くみられるムナグロはチドリの仲間で、柿木田んぼには毎年4月初めから5月中旬まで滞在します。越冬地であるオーストラリア周辺から草加にやって来て、ひと月半の滞在中にたっぷり脂肪を蓄えます。やがて群れがまとまると一気に繁殖地の北極圏を目指して飛び立ちます。

柿木田んぼを30年以上見ている鈴木さんによると、今年のムナグロの渡来数は最大で106羽（5月6日）だったそうです。10年前、越谷レイクタウンができるまでは、そこは柿木田んぼに続く広大な田んぼがありました。そこには今の3倍のムナグロや、サギが見られました。ショッピングモールが出来て買い物は便利になりましたが、生き物はいなくなりました。人口が減っている今、子供たちや生き物のために田んぼを残しませんか？

僕は草加市内でムナグロが見られることをずっと誇りに思ってきました。田んぼさえあれば全国どこでもムナグロが見られるというわけはありません。長い長い渡りの経験からムナグロ達は草加市の田んぼを選んでくれたのです。都市近郊の農業の継続が難しいのなら、市民や自治体が協力して「農業公園」という形態で田んぼを残していくこともできるかもしれません。

皆さん今回は雨の中でしたが、田植えが終わったばかりの田んぼは美しかったです！ムナグロの観察を通して都市近郊の田んぼの大切さを考えていただけたなら幸いです。



【ムナグロ】

参加者の声

・たくさん鳥がみつかってよかった。雨なのに鳥がいてよかった。私の知らない鳥がいて楽しかった。（木村さん子）

・初めてチュウシャクシギ、ムナグロを見ました。どちらも土の色に似ていて見つけるのが大変でした。柿木の田んぼに渡ってくると聞いて、ずっと田んぼを残してほしいと思いました。

（木村さん母）

・2回目の参加です。今回は鳥の観察ということで柿木地域の田んぼ周辺を歩き、様々な野鳥を見ることができました。中でもキジは前回も今回も見ることができ、草加にキジがいること自体が驚きで、増々自然に目を向けることが楽しみになりました。室内でのまとめの時間も勉強になります。渡り鳥が休めるような水辺の大切さ、温暖化による変化など、自然環境の大切さを実際に調査に参加したりまとめを聞いて感じることができました。次回も楽しみです。

（白鳥さん）

・車で意識せず走っていますが、今日観察しながら歩くと思ったより多くの鳥がみられました。

（甲斐弘己さん）

・野鳥、野草に関する企画を増やしてほしい。
・雨が降ったのが残念でしたが、その割には色々な鳥が見られたので良かった。

■オタマジャクシ観察レポート

2017.7.10

磯谷 嘉子さん

今年初めて、八幡町にある田んぼから捕まえてきたオタマジャクシを育てて、アマガエルに成長したので、簡単にレポートさせていただきます。6月10日頃に捕まえてきた全長2cmくらいのオタマジャクシは、中にはもう後ろ足が生え始めているものもありました。

後ろ足が完全に生えて約1週間ほどで前足が皮膚の下にでき、準備ができると、皮膚を突き破るようにして、出てきました。（写真①）



写真①

前足が完全に出てきて、1～2日すると水から上陸してきました。上陸して1～2日で色が緑色になりました。（写真②）

上陸してから、数日でしっぽが吸収されて完全になくなりアマガエルになりました。完全にカエルになった個体から、順次同じ田んぼに逃がしましたが、数匹まだ飼っています。



写真②

また、6月18日に八幡町の田んぼで、このような白いオタマジャクシを捕まえました。

（写真③）



写真③

いくつか質問があります。

（編集会議で回答を作成しました。）

Q：白いオタマジャクシは、アルビノなのでしょうか？アルビノの場合は、目が赤だったりして、完全に色素がないと思うのですが捕まえたオタマジャクシは、目は黒いです。

A：白いオタマジャクシは「アルビノ」と呼ばれるもので、劣性遺伝や突然変異により先天的にメラニン色素がないものです。目が黒いアルビノもいるそうです。このまま白いカエルに成長するそうですが、自然界では色が目立つため、無事に成長することは難しいとのことですよ。

Q：オタマジャクシを捕まえてきた田んぼは、1週間程前に水がなくなっていました。自然の状態では、田んぼの水がなくなる前に、カエルにならなかったオタマジャクシは、死んでしまうのでしょうか？

A：稲の成長を促すため、何度か田んぼの水を落とす必要があります。そのとき、生きものたちは排水路に水と一緒に逃げたり、泥のなかに隠れたり、卵等で子孫を残したりしています。逃げ遅れたものは、鳥のえさになったり、死んでしまったりするものもあります。

■調査員からのQ & A

調査員から寄せられた質問にお答えします。

Q：生きもの調査報告書の記入について、植物と樹木の確認は開花時としてよいのでしょうか。

A：植物は開花時のみ、樹木は、開花時か実のなった時のみ見つけたものとします。

Q：鳥は、目視できないと確認にならないのでしょうか。鳴き声を知っている場合は確認としてよいのでしょうか。

A：手引きに記載のとおり鳥とセミは鳴き声で確認できれば、見つけたとみなすことにします。

Q：観察会の時に見つけたキジは、草のところでずっと動かなかったのですがなぜでしょうか。

A：多くの野鳥は身の危険を感じると体を動かさず、じっとしています。臆病で警戒心が非常に強いキジも天敵（猛禽類、人、動物など）は身近にいたので同じ動きををすると思われます。

Q：田んぼにいた貝は何でしょうか。

A：タニシと思われます。なお、タニシはタニシ科に属する巻貝の総称で、日本には、オオタニシ、マルタニシ、ナガミタニシ（琵琶湖のみ）ヒメタニシの4種が生息しています。また、その肉は食用となります。

Q：野鳥、野草、昆虫等できるだけわかりやすく解説したものはないでしょうか。

A：市内の田んぼや川など環境タイプごとに生息する生きものをまとめた「そうかの自然」というガイドブックがあります。

■こんな生きものを発見

○珍鳥飛来する

近岡 勝夫さん

初夏、草加の柿木田んぼでは田植えが始まりました。その頃に合わせて多くのシギ類がこの田んぼにやってきます。今年もムナグロ、チュウシャクシギ、キアシシギ、アオアシシギなどが飛来しました。驚いたことに、今回はムナグロの群れの中に、一緒に行動している**エリマキシギ（襟巻鴎）**一羽が見つかったのです。



エリマキシギは草加（埼玉）はもとより、近在でも見たことがない非常に珍しい鳥です。近県では2014年に千葉、山梨で確認されているだけです。日本は渡りの通過点にあたり、旅鳥として春と秋に少数が観察されている位（西日本では、時々越冬する個体もいるとか）。それもほとんど冬羽であり、今回見られたのは夏羽が進むエリマキシギであり、日本でもその様子は滅多に見られないようです。そんな珍鳥なので、市外（横浜、川崎、多摩方面など）からも大勢のバードファンが一目見ようと連日押し寄せ、トラブルも出るほどでしたが、大事に至らなくて良かったです。

資料によると、**エリマキシギ**はユーラシア大陸から北極圏にかけての湿地帯や牧草地で繁殖し、冬期は地中海沿岸からアフリカ、インド、オーストラリア南部などに渡りを行い越冬するようです。体長は約30cm前後、他のシギ類と比

べると、やや首が長めでくちばしが短い。日本に渡来時は、干潟や休耕田などに生育し、甲殻類やゴカイ、昆虫などを捕食しています。
 ※上野動物園でも5,6年前まで**エリマキシギ**は飼育されていたようで、6月の繁殖期には**襟巻状**の姿が見られたようです。**写真（円内）**は、その当時に撮られた襟巻状の貴重な様子。残念ながらすでに亡くなっており、その後は飼育していないようです。



・トラフシジミ

2017.7.3撮

○蝶の女神 舞い降りる

村木 浩一さん

草加で絶滅が危惧されていた希少種の、ミズイロオナガシジミ、ミドリシジミ、トラフシジミに、そうか公園で遭遇。もう、市内では出会えないと思っていたのに。最高の出会いだ。感激、感謝。（下の写真は、そうか公園にて撮る。）

・ミズイロオナガシジミ

2017.5.30撮



食草：クヌギ、カシワ、

生息：1985年、3地点で虫の息（苗塚・弁天・新里）。柿木も不安。－『草加市史』

・ミドリシジミ

2017.6.23撮

食草：ハンノキ

生息：1985年新里、柿木のみ。このままだと絶滅の恐れ。－『草加市史』－



食草：フジ、クズ、ミズキ

生息：1984.7.11 氷川町の1例のみ

－『草加市史』－

【註】生息は『草加市史』自然・考古編（V）草加の動物（七）昆虫類を参照する。

昨年、新田小図書館で『草加市史』に出会う。市内の自然環境、生きもの環境を知る。

ミズイロオナガシジミ、ミドリシジミ、トラフシジミ。この3種には、市内では出会えないと思っていた。ミドリシジミには奥日光や大町自然公園（市川市）で出会え、撮っている。ミズイロオナガシジミには、市外でもいいから出会いたい。そう願っていた。女神に乾杯。予想外のトラフシジミにも出会え、撮ることができたのだから。ただ、2度目は無いようである。毎日のように探し回っているが、あの日以来、ミズイロオナガシジミ、ミドリシジミ、トラフシジミには出会えず。（2017.7.12）

■個別調査結果(平成29年4月～6月)

4月 区域別一覧

区分	No	調査種	第1区域	第2区域	第3区域	第4区域	第5区域	第6区域	第7区域	第8区域	第9区域	第10区域	確認数
植物	1	在来タンポポ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9
	2	セイヨウタンポポ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9
	3	セイタカアワダチソウ		○		○				○	○	○	4
	4	カントウヨメナ								○	○		2
	5	キタミソウ											0
	6	スミレ類	○	○		○	○		○	○	○	○	8
	7	ミゾソバ											0
	8	イヌタデ		○									1
	9	ツユクサ	○							○			2
	10	ヨシ(アシ)	○		○		○			○	○		5
	11	ハンノキ			○						○		2
	12	エノキ			○						○		2
	13	クヌギ				○					○		2
鳥	14	幹周り2m以上の樹木			○	○							2
	15	メジロ	○		○	○	○	○	○	○	○		7
	16	キジバト	○		○	○	○		○	○	○	○	7
	17	コサギ	○		○	○	○		○	○	○		5
	18	カルガモ			○	○	○		○	○	○	○	6
	19	カワセミ				○	○	○	○	○			5
	20	コゲラ								○	○		1
	21	ツバメ	○			○	○	○	○	○	○	○	7
	22	ツバメの巣	○			○				○	○	○	4
	23	ハクセキレイ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	8
	24	モズ							○	○	○		2
	25	ツグミ	○	○	○		○		○	○	○		6
	26	オオヨシキリ							○	○	○		2
昆虫・蝶・その他	27	シジュウカラ	○			○	○	○	○	○	○	○	7
	28	オナガ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	7
	29	モンシロチョウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
	30	アゲハチョウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○		8
	31	アオスジアゲハ		○		○			○	○	○		4
	32	ナガサキアゲハ					○		○	○	○		3
	33	ツマグロヒョウモン				○	○		○				3
	34	アカボシゴマダラ									○		1
	35	カブトムシ											0
	36	ニイニイゼミ											0
	37	クマゼミ											0
	38	ツクツクボウシ											0
	39	オオカマキリ											0
	40	シオカラトンボ									○		1
	41	トノサマバッタ											0
	42	アマガエル				○			○	○			3
区分	No	調査種	第1区域	第2区域	第3区域	第4区域	第5区域	第6区域	第7区域	第8区域	第9区域	第10区域	確認数
		確認数	16	9	15	21	2	16	10	25	29	12	

5月 区域別一覧

区分	No	調査種	第1区域	第2区域	第3区域	第4区域	第5区域	第6区域	第7区域	第8区域	第9区域	第10区域	確認数
植物	1	在来タンポポ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9
	2	セイヨウタンポポ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9
	3	セイタカアワダチソウ			○	○				○	○		4
	4	カントウヨメナ								○			2
	5	キタミソウ											0
	6	スミレ類	○	○	○	○				○	○		6
	7	ミゾソバ											0
	8	イヌタデ				○							1
	9	ツユクサ					○			○	○		3
	10	ヨシ(アシ)			○	○				○	○		4
	11	ハンノキ			○				○	○	○		4
	12	エノキ			○	○			○	○	○		5
	13	クヌギ				○		○	○	○	○		5
鳥	14	幹周り2m以上の樹木			○	○					○		3
	15	メジロ			○	○				○	○		4
	16	キジバト	○		○	○	○		○	○	○	○	7
	17	コサギ			○	○			○	○	○		3
	18	カルガモ			○	○	○	○	○	○	○		6
	19	カワセミ				○	○		○	○	○		3
	20	コゲラ							○	○	○	○	4
	21	ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
	22	ツバメの巣	○			○	○		○	○	○		5
	23	ハクセキレイ			○	○	○		○	○	○	○	6
	24	モズ									○		1
	25	ツグミ									○		1
	26	オオヨシキリ					○		○	○	○		3
昆虫・蝶・その他	27	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9
	28	オナガ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	8
	29	モンシロチョウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9
	30	アゲハチョウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8
	31	アオスジアゲハ	○	○	○	○	○		○	○	○	○	8
	32	ナガサキアゲハ		○					○	○	○	○	4
	33	ツマグロヒョウモン	○			○	○		○	○	○	○	6
	34	アカボシゴマダラ					○		○	○			3
	35	カブトムシ											0
	36	ニイニイゼミ											0
	37	クマゼミ											0
	38	ツクツクボウシ											0
	39	オオカマキリ											0
	40	シオカラトンボ			○					○	○	○	4
	41	トノサマバッタ											0
	42	アマガエル				○			○	○			3
区分	No	調査種	第1区域	第2区域	第3区域	第4区域	第5区域	第6区域	第7区域	第8区域	第9区域	第10区域	確認数
		確認数	12	9	19	24	2	19	11	28	33	14	

6月 区域別一覧

区分	No	調査種	第1区域	第2区域	第3区域	第4区域	第5区域	第6区域	第7区域	第8区域	第9区域	第10区域	確認数
植物	1	在来タンボポ		○	○			○		○			4
	2	セイヨウタンボポ			○	○	○	○	○	○	○		7
	3	セイタカアワダチソウ			○					○	○		3
	4	カントウヨメナ	○			○	○		○	○			5
	5	キタミソウ											0
	6	スミレ類				○				○	○		3
	7	ミゾソバ				○							1
	8	イヌタデ		○	○	○		○		○			5
	9	ツユクサ	○	○	○			○	○	○	○		7
	10	ヨシ(アシ)			○	○	○			○			4
	11	ハンノキ			○						○		2
	12	エノキ			○	○					○		3
	13	クスギ				○			○		○		3
	14	幹周り2m以上の樹木			○	○							2
鳥	15	メジロ			○								1
	16	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
	17	ユスギ			○						○		2
	18	カルガモ	○		○	○		○	○	○	○		7
	19	カワセミ				○		○		○	○		4
	20	コゲラ								○	○		2
	21	ツバメ	○	○	○	○		○	○	○	○	○	9
	22	ツバメの巣	○			○			○	○	○	○	6
	23	ハクセキレイ		○	○	○		○	○	○	○	○	8
	24	モズ											0
	25	ツグミ		○		○							2
	26	オオヨシキリ			○					○	○		3
	27	シジュウカラ	○			○		○		○	○		6
	28	オナガ	○		○	○		○	○	○	○	○	8
昆虫・蝶・その他	29	モンシロチョウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
	30	アゲハチョウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
	31	アオスジアゲハ					○	○	○	○	○	○	6
	32	ナガサキアゲハ		○		○		○	○		○		5
	33	ツマグロヒョウモン	○	○		○		○	○	○	○	○	8
	34	アカボシゴマダラ						○	○	○	○		4
	35	カブトムシ		○									1
	36	ニイニイゼミ								○	○		2
	37	クマゼミ											0
	38	ツクツクボウシ											0
	39	オオカマキリ									○		1
	40	シオカラトンボ	○		○	○		○	○	○	○	○	8
	41	トノサマバッタ					○				○		2
	42	アマガエル							○	○	○		3
区分	No	調査種	第1区域	第2区域	第3区域	第4区域	第5区域	第6区域	第7区域	第8区域	第9区域	第10区域	
		確認数	12	12	21	23	8	18	18	26	29	10	

※注 報告のとおり記載しています。

【42種以外の生きもの】

詳細は市ホームページに掲載

4月

- ・樹木が19種。植物は、139種。合計158種確認。そのうち希少種が、4種。
外来種は62種で、約45%
- ・鳥類は、47種確認。
- ・昆虫等は、41種確認。

5月

- ・樹木が12種。植物は、191種、合計203種確認。そのうち希少種が、3種。
外来種は89種で、約44%
- ・鳥類は、32種確認。
- ・昆虫等は、57種確認。

6月

- ・樹木が23種。植物は、179種、合計202種確認。そのうち希少種が、3種。
外来種は93種で、約46%
- ・鳥類は、20種確認。
- ・昆虫等は、76種確認。

■第2回そうか生きもの集合調査 観察リスト

- ・開催日 平成29年5月13日（土）
- ・場 所 柿木田んぼ
- ・調査種 鳥類
- ・参加者 31人

○調査種14種 6種確認

区分	№	調査種	確認
鳥 1 4 種	15	メジロ	
	16	キジバト	○
	17	コサギ	○
	18	カルガモ	○
	19	カワセミ	
	20	コゲラ	
	21	ツバメ	○
	22	ツバメの巣	
	23	ハクセキレイ	○
	24	モズ	
	25	ツグミ	
	26	オオヨシキリ	○
	27	シジュウカラ	
	28	オナガ	

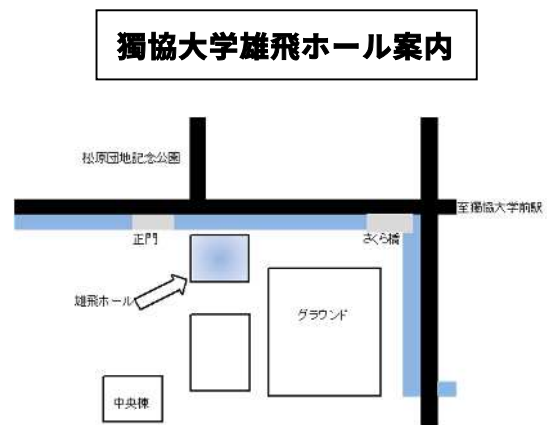
○調査種以外 13種確認

区分	生きもの名	生きもの名
鳥	ダイサギ	カワラヒワ
	チュウサギ	スズメ
	アオサギ	ムクドリ
	コチドリ	ハシブトガラス
	ムナグロ	ハシボソガラス
	チュウシャクシギ	キジ
	ヒバリ	



■第4回集合調査のご案内

- ・日 時 平成29年8月22日（火）9時
～正午
- ・集合場所 獨協大学雄飛ホール（学生センター）
- ・集合時間 8時50分
- ・内 容 獨協大学キャンパス内と松原団地
記念公園の生きものを調べます。
- ・申 込 み 8月21日（月）までに環境課へ



■これからよく見られる生きものたち

○植物



【ヒガンバナ】



【シロバナサクラタデ】

○鳥



【アレチヌスビトハギ】



【ジョウビタキ】



【アオサギ】



【エナガ】

○昆虫



【ウスバキトンボ】



【ウラナミシジミ】



【ショウリョウバッタ】

そうか生きもの調査編集委員会委員

菅 藤男 近岡 勝夫

村木 浩一 草野 美津枝

【編集後記】

暑い日が続きますが、調査員の皆さん、毎月の報告ありがとうございます。

以前のたよりをリニューアルした「そうか生きものだより」創刊号をお届けします。皆さんの調査に役立つ情報など、内容充実のため、各コーナーの記事や写真などを募集しています。お気軽にお寄せください。

【K】



【ヌマトラノオ】

サクラソウ科

人里・田畑、湿地・池地などの湿地に生える多年草。

花期は7～8月。

直径5mmの白い花が咲く。

高さは40～70cm。

埼玉県準絶滅危惧（NT）。

イラスト：草野 美津枝さん